



白井市 100 人会議

環境美化 6 年間の考動

～みんなで考え、みんなで活動～

**SHIROI**  
**100**  
**人**  
**KAIGI**

平成21年3月

白井市 100 人会議

## ◎100人会議設置の目的

市では、市民参加のまちづくりを積極的に進めるため、計画実施過程での市民参加について検討し、活動を先導的に展開する市民推進組織として、平成15年8月に100人会議を設置、平成16年度（第2期100人会議）からは、環境美化の推進を大きなテーマに、市民の関心を高め自主的な市民活動を推進することを目的として、活動を展開してきました。

## ◎ 環境美化活動に取り組んだ6年間

100人会議は、市民の立場から広く環境美化活動を普及するため、会議と実践活動に6年間で延べ144人の推進員がさまざまな活動に取り組んできました。

特に、市民の自発性を尊重し、市民と行政の役割分担を明確化して、市民が環境美化活動に対し積極的に参加できる制度について、調査・研究を行い、アダプトプログラム制度として市に提案をいたしました。

市では、100人会議の提案を受けて、平成19年5月からアダプトプログラム（市民が育てるきれいなまちづくりたい）制度を開始し、現在4団体が登録をしているところです。

アダプトプログラム制度開始後も100人会議では、普及促進を図るため市と連携・協力しながら制度充実のための提案などに取り組んでいます。

平成20年度は市と100人会議において、今後の100人会議のあり方、方向性についても議論を重ね、その結果100人会議は、アダプトプログラムの導入と普及という成果により本年度をもって終了し、新たな市民活動として生まれ変わることにしました。

市民参加や環境美化に対する市民の意識は、まだまだ低いと言わざるを得ません。

市民参加のまちづくりを進めていくには、市民と行政が対等な立場で、共通の目標に向けて共に考えていくことが重要です。

市には、100人会議で培ったノウハウを活かし、行政活動に対して市民の意見を反映できる仕組みづくりとともに、協働で実施する心ふくらむまちづくりをお願いします。

我々推進員は、100人会議終了後も市民参加によるまちづくりに積極的に関っていきます。今後ともご支援・ご協力の程よろしくをお願いします。

## 100人会議の事業成果と課題（6年間の実績）

### ◎市民参加に関する活動（市民参加の体制づくり）

#### ○事業名

- ・新しいまち美化システムの構築

市民や団体と行政が目的を共有し、それぞれの役割分担を明確にしながら、協働により環境美化を推進するためのシステム（アダプトプログラム）の導入について検討しました。

- ・アダプトプログラムの普及促進

制度提案に留まらず、市民の視点から制度を盛り上げるため、制度の普及促進について検討しました。

#### ○具体的な活動

- ・行政への制度提案（平成15年度～平成18年度）

100人会議の定期的な会議の中で、市民や団体と行政との役割分担のあり方や目標の共有、愛着のある名称検討など、環境美化里親制度（アダプトプログラム）の実現に向けて、行政への制度提案を実施。

- ・モデル区域事業（平成19年度、平成20年度）

アダプトプログラムのモデル対象区域を選定し、周辺自治会への制度紹介と企画提案など、地域住民の主体性と意見を尊重しながら普及活動を実施。

- ・広報紙「しろい」の活用（平成19年度、平成20年度）

毎月1回100人会議のコーナーで、100人会議の活動を通じてアダプトプログラムの制度と活動団体の参加状況を紹介。

- ・ふるさとまつりの活用（平成18年度、平成19年度）

パネル展示によるアダプトプログラムの制度紹介や、アダプトプログラムに関するアンケート調査を実施、138人の協力を得る。

- ・駅スペースの活用（平成19年度、平成20年度）

北総線の市内各駅へ、パネル展示によるアダプトプログラムの制度と活動団体の参加状況を紹介。

- ・環境フォーラムの活用（平成 19 年度、平成 20 年度）  
パネル展示によるアダプトプログラムの制度紹介と活動団体の参加状況を紹介し、環境フォーラムの参加者へ制度のチラシを配布。
- ・民間企業の活用（平成 20 年度）  
企業訪問を行い制度の趣旨と概要を説明し、制度への参画を促す。

### ○成果

100 人会議からの制度提案により、市が平成 19 年 5 月 1 日から白井市アダプトプログラム制度（市民が育てるきれいなまちづくりたい）の導入を決定。

### アダプトプログラム参加団体（H21. 3 現在）

団体名	白井友の会	ひよこ児童公園 の環境を守り地域 協力を促進する会	ふらり 風楽里	ホームマック 白井店
開始年月	H19年10月	H20年5月	H20年8月	H20年11月
活動区域	白井地区 子供公園	富士地区 ひよこ児童公園	大山口地区 緑地	店舗周辺の歩道、 側道の植え込み など
活動内容	清掃、草刈 など	清掃、花植えなど	花植え、環境整備	清掃など
参加員数	27名	45名	26名	65名

### ○今後の課題

- ・魅力ある制度に向けた条件整備の検討。
- ・参加団体を増やすため、制度の認知度を上げる施策の検討。

### ○提案事項

- 1、表彰制度の活用とサインボードの設置。
- 2、アダプトプログラム推進員制度の制定。
- 3、あらゆる広報媒体とイベントの活用による制度PR。
- 4、関係課による企業、団体に対する制度参画への依頼。

### ○今後の取り組み

#### 《行政》

- 1、市の表彰制度の活用と見直しを進め、活動団体等の意見や関係各課との意見交換の場を設け、制度の検証、改善を実施します。

2、アダプトプログラム推進員制度の実施について検討します。

3、広報紙「しろい」の活用については、新規に制度加入団体があれば随時、その他制度紹介等については、ゴミゼロ運動や環境フォーラムなど、イベントのお知らせと併せて制度の紹介ができるよう調整をします。

また、環境フォーラムなど、環境課をはじめとする関係課と連携しながら、チラシの配布等イベントでの啓発を検討します。

4、制度参画への依頼については、特に団体へ管理をお願いしたい場所や、制度に関心がある団体等について、団体等の主体性と意見を尊重しながら、施設を所轄する関係課と行動をしていきます。

《提案者として》

- ・市民の立場で制度を検証し、行政へ情報提供を行います。
- ・身近な地域での制度活用の検討と制度PRを実施し、状況に応じて行政へ情報提供を行います。

◎環境美化の実践活動（市民参加の実践）

○事業名

- ・ポイ捨てゴミをなくす環境づくり

市民や団体の協力を得て、広がりのある環境美化の実践活動とポイ捨てゴミをされない環境提案について検討しました。

○具体的な活動

- ・各地域での清掃活動（平成 15 年度～平成 20 年度）

西白井駅圏、白井駅圏、桜台地区の環境美化活動を盛り上げるため、活動している団体や地域住民との連携により、清掃活動を実施。

- ・白井停車場線 中央分離帯への花の植栽（平成 15 年度～平成 20 年度）

中央分離帯にポイ捨てゴミが多いことから、ゴミを捨てさせない環境提案として、民間企業や団体との協働により、中央分離帯を花壇として整備。

- ・白井駅前広場の灰皿設置及び定期的な清掃活動（平成 19 年度、平成 20 年度）

行政や民間企業との連携、協働により、ポイ捨てゴミの中でも多い、タバコの吸殻のポイ捨てを防止するため、白井駅前広場に灰皿を設置し、清掃活動を実施。

○成果

- ・各地域での清掃活動

団体等の定期的な活動も定着し、各地域とも収集したゴミの量は、活動を開始した当初と比較して、減少傾向にある。

- ・白井停車場線 中央分離帯への花の植栽

ポイ捨てゴミの減少効果は顕著であり、100 人会議の活動フィールドとして、市民の認知度も高く、癒しの空間の提供と環境美化に対する市民への意識の高揚が図れた。

- ・白井駅前広場の灰皿設置

収集したポイ捨てタバコの吸殻は、灰皿の設置前と比較して、極端に減っている。

○今後の課題

- ・参加団体等が固定化していることから、活動団体の広がりが無い。
- ・ポイ捨てゴミがなくなる。（歩行者、自動車からのポイ捨て、置き去りなど）

- ・100人会議が終了した場合、中央分離帯での美化実践活動がなくなるため、中央分離帯にポイ捨てゴミが増える可能性がある。
- ・100人会議が終了した場合、灰皿の清掃管理等ができなくなることから、灰皿設置の継続が困難になる可能性がある。

#### ○提案事項

- 1、ゴミゼロ運動の拡大と啓発活動の充実。
- 2、まちをきれいにする条例の適用と条例の見直し。
- 3、継続した白井停車場線の中央分離帯花壇整備。
- 4、継続した白井駅前広場の灰皿設置。

#### ○今後の取り組み

##### 《行政》

- 1、市が実施する年2回の「ゴミゼロ運動」を実施することで、各自治会の環境美化に対する意識の高揚が図られ、そのことから、「ゴミゼロ運動」とは別に、自治会独自の清掃活動へ繋がればと考えているため増やす予定はありません。  
啓発活動については、駅周辺や道路上などポイ捨ての多く見られる箇所での啓発活動や清掃活動に重点をおき環境美化への意識向上を図ります。  
また、腕章の貸し出しを行うことにより、ひとりでも多くのご協力と啓発活動や清掃活動の普及に繋がればと考えています。  
その他、イベントに環境美化に関わる啓発については、市民団体の協力を得て、不法投棄対策講座や駅前でのポイ捨て防止啓発を実施しています。平成21年度からは、6月の「環境月間」と併せて「不法投棄撲滅強化月間」として、市民自らが地域の環境を守る意識を醸成し、「不法投棄しにくい」環境を築いていくため、市民や市民団体と連携してキャンペーンの実施を検討します。  
なお、キャンペーンの内容については、市民の参加を募りながら実施できるものを検討します。
- 2、啓発活動や清掃活動に取り組むことで、ポイ捨て防止に繋がればと考えていますが、ポイ捨てゴミの減少やマナーの向上が図れない場合など、きれいなまちづくりを進めていくうえで不都合や問題点等があれば、条例を運用する中で検討していきたいと考えています。
- 3、中央分離帯花壇整備については、ポイ捨てゴミの減少効果等から、アダプトプログラムの活用により、継続した活動を考えています。  
花の植栽については、アダプトプログラムの活用と併せて花いっぱい運動の登録について紹介をします。

4、白井駅前広場の灰皿設置については、たばこのポイ捨て防止に効果を上げていることから、この取組みについては、今までと同様に市民（団体）の清掃協力を得て、市がゴミを回収する方法を考えています。

市民団体への協力依頼や清掃ボランティアについて呼びかけを検討します。

また、管理体制を確保・明確にすることは必要であるため、アダプトプログラムや有償ボランティアの活用について、今後、検討します。

《提案者として》

- ・個人、家庭、地域でできる環境美化の推進と活動への参加を実践します。
- ・100人会議の活動実績を活かし、アダプトプログラムへの制度参画について検討します。



◎広報啓発活動（市民参加の啓発）

○事業名

・市民への情報発信

一人でも多くの市民や団体の協力を得ながら、効果的に環境美化の推進を図るため、市民への情報発信について検討しました。

○具体的な活動

・広報紙「しろい」の活用（平成15年度～平成20年度）

環境美化に対する意識の高揚を図るため、毎月1回100人会議のコーナーで、100人会議の活動状況や美化実践活動のお知らせ、市民活動団体の報告などを掲載。

・まちづくりフォーラムの開催（平成16年度）

市民参加のまちづくりを進めるため、「市民は、まちづくりの主役」をテーマに、基調講演と「しろい☆まちかど美術館実行委員会」、「白井市100人会議」、「白桜会ボランティア部会」による事例発表及び意見交換会を実施。

・美化活動マップの作成（平成16年度）

美化活動団体等に関する実態調査を基に美化活動マップを作成し、広報紙等により啓発を実施。

・ふるさとまつりの活用（平成18年度、平成19年度）

環境美化の推進を図るため、100人会議の環境美化に対する取り組みを中心にパネル展示を実施。

・駅スペースの活用（平成18年度、平成19年度、平成20年度）

環境美化の推進を図るため、北総線の市内各駅へ100人会議の環境美化に対する取り組みを中心にパネル展示を実施。

・環境フォーラムへの参画（平成19年度、平成20年度）

環境フォーラムの実行委員会の一員となり、環境に取り組む団体や行政と連携、協力し、100人会議の活動を紹介しながら環境保全についての啓発を実施。

○成果

事業の性質から、数字等により成果を記載するのは難しい部分がある。

環境美化に対する活動への参加や意識の向上、新規推進員の開拓など、様々な効果が期待できる重要な事業として活動を実施。

○今後の課題

- ・幅広い年代層に対して、広報、啓発活動が必要。

○提案事項

- 1、市民活動の具体的な内容について、やって良かったという参加者の声をPRする。
- 2、若い人たちに関心を持たせ、広報活動へ参加させるような手段。

○今後の取り組み

《行政》

- 1、市では平成15年度に市民活動推進センターを白井駅前センター内に設置しています。推進センターでは、市民活動を推進するための情報発信や支援を行っています。また、平成19年度から市民活動団体と市民の交流の場として、市民活動まつりを実施しています。これらの各種事業の中で提案いただいたPR方法を検討します。
- 2、多くの若者は行政活動に無関心だと思われれます。その中で若い人たちの意見を反映させ関心を持たせる手段や仕組みを検討するのは、非常に難しい問題だと考えますが、まずは、若い人たちの存在を事業展開する上で意識し、あらゆる広報媒体（広報紙、ホームページなど）の活用と若者が多く集まる場所への情報発信が重要であると考えます。

《提案者として》

100人会議の活動実績を活かし、市民参加のまちづくりについて、多くの人たちに関心をもってもらえるように、市民の立場でPRを実施する。

## ◎推進員から100人会議の活動への想い

6年かけて作りあげたアダプトプログラムが、このような登録団体数で終結を迎えることはとても心苦しいです。せめて後1年あれば周知、募集活動ができたと思えば残念でなりません。

100人会議の名称があればこそ企業、団体をお願いに行けたのです。市民参加推進課の決定事項ですから仕方ありませんが、制度が出来たので終結では今までの条例、制度のように魂の入らない物では苦勞が報われません。ぜひ立派な制度になるようお願いいたします。

市民活動の先導役として、市内のポイ捨てゴミの現況調査、捨てられない環境づくり、花植えの場所にはゴミを捨てにくい結論から、中央分離帯へ花植えの実践活動に効果あり。しかし、この活動により時間がとられ、本来の先導役の指名が果たせなかったのではと反省もあります

100人会議の見直しがあります。市民活動の拡大、強化が今後の大きな課題です。現行の100人会議を見直す中で、組織として継続してもらいたいです。

アダプト制度についての市民の認知度が低いと思うので、行政が一定の期間、集中的に広報活動を行う必要があると思います。認知度が上がれば自ずと課題は解決していくと思います。

100人会議に2年間参加して活動しました。参加メンバーの方々は、環境美化活動だけでなく、同市内に住む住民として、「明るく、住みよく、生き生きとし街づくり」に多くの市民が参加するように考えています。

防犯安全パトロールや福祉活動など、市民自らが参加して、グループ活動を活発化させて行く必要性を痛切に感じます。

提言を求めるテーマ（現状は環境美化）に対し、役所での主管部署の関与が少なすぎる。環境美化は「環境課」が主管部署であると思うが、もっと積極的な要請等があるべきと思う。実行部隊がその気にならなければ、物事は実現しないと思います。「市民参加推進課」はあくまでも仲介役であり、主体は「環境課」であると認識しています。

100人会議終了後、同じような市民参加のまちづくりの仕組みを作るなら、テーマと主管部署を明確にして推進したほうが効率的だと思います。

広報「しろい」の100人会議メンバー募集案内を見て、「幼子（おさなご）が安心して過ごせる街づくり」のお役に立ちたいとの想いで参加させて頂きました。実際の100人会議は私の想いとは少々異なりましたが、市民参加活動第一線を十分体験させて頂きました。参加して良かったと考えています。

今回の総括で話題になったとおり、最重要課題は「市民参加活動の拡大」でしょう。

①普通の市民がなんとなく意識している「参加してみてもよいかも意識」を吸い上げ

る策。

②身近に多様な活動団体があり、気軽に参加出来る。ことの広報・周知が、肝要と思います。

忙しい現役世代に大きくは期待できないとして、ターゲットは我々ニュータウン創設時に市民となり今や現役を退いた住民のパワーです。

広報内容について。各団体活動状況の記事に加えて、メンバー募集案内を常時付加すべきです。加えて、行政による活動団体支援・援助策の実情実績も広報して良いと考えます。

今後の拡充策検討の為には、アイデア募集も必要でしょう。

百人会議でお知り合いになれた皆様の御縁を大切に、(新たな)市民活動団体に参加させていただきたいと思えます。今後とも宜しく願い申し上げます。

---

このような市民活動はそれぞれがばらばらに進行しながら白井市(市長の)が掲げる大きな理念にそすべきものと考えます。

それら活動する組織間の連絡網には白井市が関与すべきで、その役割を担うのは白井市組織の縦割りを横断的に調整する役割とそれなりの権限を有した組織が必要である。現在ご苦労されている「市民参加推進課」がその役割にあるのかな?と思うが私のおもいとは少し異なっている。(私は市長直轄の精鋭部隊であってほしい)

その「市民参加推進課の精鋭メンバーで市長直轄の部?課?」が行政全般に介在する「要市民参加アイテム」を「100人会議のような市民グループ」の参加を得て優先順位別、年度別な順位など取捨選択決定し市民参加での芽をつくった上、アイテムの担当課へ移管していく。この場合このアイテムの実施は左記で芽(一人または複数人)となった人達がこの活動を押し進めていく。というわけにはいかないでしょうか。

---

平成17年から100人会議に参加させていただき4年間無力だった自分に反省しています。

入会当初市のことが全く知らなかった私が、今では数多くの人たちと知り合い、お付き合いいただき、楽しく過ごしていることに感謝しています。

4年間を通じて感じたことは、委嘱状の重みを感じている人が何人いたか、会議、行動日の出席率、誰もが都合があり休むことはありますが、連絡して出てこない人、会議で全く妥協できない人など、リーダーのリーダーシップによって明暗が分かれた100人会議でした。

今年度の解散は丁度良い時期と感じています。

---

アダプト制度を普及させるため、「地域に根ざした活動」例えば地域の道路、公園、居住地内の公道などの年間数回の清掃活動とか、身近なところから意識を高める事をもう一度始めていくようにと考えます。

対象は企業、商店街、個人、自治会、学校、市民各種団体等にアプローチしていく。